

令和 8 年度登録販売者試験問題

山 梨 県

(令和 8 年 8 月 2 6 日 I の部)

分 野		出題数	試験時間
1	薬事に関する法規と制度 (20 問)	6 0 問	1 2 0 分
2	医薬品に共通する特性と基本的な知識 (20 問)		
3	人体の働きと医薬品 (20 問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 2 この試験問題は問 1 から問 6 0 までの 6 0 問です。解答は、解答用紙の「良い例」にならって、解答欄の解答番号を 1 ヶ所ぬりつぶしてください。指示された方法以外での記入や、1 つの問題に複数解答した場合には、その問題の解答は無効になります。
- 3 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消しあとが残らないようにプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておいてください。
- 4 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 5 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、試験官の指示に従ってください。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができます。

薬事に関する法規と制度（20 問）

【問 1】 登録販売者試験及び販売従事登録に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 登録販売者試験の受験に当たって、過去には一定の学歴や実務経験を要することとされていたが、現在はこの受験資格は撤廃されている。
- b 販売従事登録を受けようとする者は、医薬品医療機器等法施行規則に定める様式による申請書を医薬品の販売又は授与に従事する薬局又は医薬品の販売業の店舗の所在地の都道府県知事（配置販売業にあっては、配置しようとする区域をその区域に含む都道府県の知事。）に提出しなければならない。
- c 販売従事登録の申請書には、申請者が精神の機能の障害により業務を適正に行うに当たって必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができないおそれがある者である場合は、当該申請者に係る精神の機能の障害に関する医師の診断書を添えなければならない。
- d 二以上の都道府県において販売従事登録を受けようと申請した者は、当該申請を行ったいずれの都道府県知事からも登録を受けることができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 2】 登録販売者名簿の登録事項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 登録販売者名簿には、登録番号及び登録年月日が登録される。
- b 登録販売者名簿には、本籍地都道府県名（日本国籍を有していない者については、その国籍）、氏名、生年月日及び性別が登録される。
- c 登録販売者は、医薬品医療機器等法施行規則第 159 条の 8 第 1 項の登録事項に変更を生じたときは、60 日以内に、登録を受けた都道府県知事にその旨を届け出なければならない。
- d 登録事項の変更の届出をするには、医薬品医療機器等法施行規則第 159 条の 9 の規定により、変更届に届出の原因たる事実を証する書類を添え、登録を受けた都道府県知事に提出しなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

【問 3】 医薬品の定義と範囲に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 日本薬局方に収められている物は、すべて医薬品に該当する。
- b 人又は動物の疾病の診断、治療又は予防に使用されることが目的とされている物であって、機械器具等でないもの（医薬部外品及び再生医療等製品を除く。）は、医薬品である。
- c 殺虫剤や器具用消毒薬などのように、人の身体に直接使用されないものは医薬品には該当しない。
- d 人又は動物の身体の構造又は機能に影響を及ぼすことが目的とされている物であって、機械器具等でないもの（医薬部外品、化粧品及び再生医療等製品を除く。）は、医薬品である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	正

【問 4】 日本薬局方に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 日本薬局方は、医薬品医療機器等法第 41 条第 1 項の規定に基づき、厚生労働大臣が薬事審議会の意見を聴いて定めたものである。
- b 日本薬局方には、保健医療上重要な医薬品について、必要な規格・基準及び標準的試験法等が定められている。
- c 日本薬局方に収載されている医薬品は、すべて医療用医薬品であり、一般用医薬品として販売されることはない。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	正	誤

【問 5】 毒薬及び劇薬に関する次の記述の正誤について、医薬品医療機器等法の規定に照らし、正しい組合せはどれか。

- a 毒薬には、それを収める直接の容器又は被包に、黒地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「毒」の文字が記載されていなければならない。
- b 劇薬には、それを収める直接の容器又は被包に、赤地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「劇」の文字が記載されていなければならない。
- c 劇薬を貯蔵し、又は陳列する場所には、かぎを施さなければならない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤

【問 6】 一般用医薬品のリスク区分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 第一類医薬品は、その副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれがある医薬品のうちその使用に関し特に注意が必要なものとして厚生労働大臣が指定するものが含まれる。
- b 第二類医薬品のうち、特別の注意を要するものとして厚生労働大臣が指定するものを「指定第二類医薬品」という。
- c 第三類医薬品に分類されている医薬品は、副作用が生じるおそれが少ないため、分類が変更されることはない。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	正	正	誤

【問 7】 医薬部外品及び化粧品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬部外品を一般小売店で販売する場合には、医薬品の販売業の許可が必要である。
- b 化粧品には、人の身体の構造若しくは機能に影響を及ぼすことを目的とするものが含まれる。
- c 医薬部外品には、脱毛の防止、育毛又は除毛を目的とするものが含まれる。
- d 化粧品において、医薬品的な効能効果を表示・標榜^{ほう}することは、一切認められていない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 8】 保健機能食品等の食品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 保健機能食品は、健康の保持増進を目的として摂取される食品であるため、これまで健康被害が発生した例はない。
- b 外形上、食品として販売等されている製品であっても、その成分本質、効能効果の標榜^{ぼう}内容等に照らして医薬品とみなされる場合には、無承認無許可医薬品として取締りの対象となる。
- c 機能性表示食品は、消費者庁長官の個別の許可又は承認を受けることが必要である。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤

【問 9】 指定濫用防止医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品が、指定濫用防止医薬品に指定されることはない。
- b 店舗販売業者は、指定濫用防止医薬品を販売し、又は授与する場合においては、販売又は授与の方法に関する手順等を記載した指定濫用防止医薬品販売等手順書を作成しなければならない。
- c ジフェンヒドラミン塩酸塩を有効成分として含有する軟膏剤（外用剤）は、指定濫用防止医薬品である。
- d カフェイン及びエフェドリンは、どちらも指定濫用防止医薬品の指定成分である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問 1 0】 医薬品の販売業の許可に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の販売業の許可は、6年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。
- b 卸売販売業の許可を受けた者は、業として一般の生活者に対して直接医薬品を販売することが認められている。
- c 医薬品の製造業者がその製造した医薬品を医薬品の製造販売業者又は製造業者に販売する場合には、販売業の許可を受ける必要はないとされている。
- d 医薬品の販売業の許可は、店舗販売業、配置販売業、卸売販売業の3種類に分けられている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

【問 1 1】 薬局及び薬剤師不在時間等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 薬局では、医療用医薬品の他、要指導医薬品及び一般用医薬品を取り扱うことができる。また、一般用医薬品のうち、第二类医薬品又は第三類医薬品に分類されたものの販売等に関しては、薬剤師のほかに、登録販売者が購入者等への情報提供や相談対応を行うこともできる。
- b 薬剤師不在時間とは、開店時間のうち、当該薬局において調剤に従事する薬剤師が当該薬局以外の場所においてその業務を行うため、やむを得ず、かつ、一時的に当該薬局において薬剤師が不在となる時間をいう。
- c 薬局開設者は、自らその薬局を実地に管理しない場合には、その薬局で薬事に関する実務に従事する登録販売者から管理者を指定して実地に管理させることができる。
- d 薬局で医薬品の販売に従事する登録販売者は、薬剤師不在時間内に限り、第一類医薬品を販売できる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 1 2】 医薬品医療機器等法の規定に照らし、店舗販売業の店舗管理者に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 店舗販売業者は、「その店舗を、自ら実地に管理し、又はその指定する者に実地に管理させなければならない」こととされている。
- b 第一類医薬品を販売し、授与する店舗における店舗管理者は、必ず薬剤師でなければならない。
- c 店舗管理者は、保健衛生上支障を生ずるおそれがないように、その店舗の業務につき、店舗販売業者に対し、必要な意見を書面により述べなければならない。
- d 店舗管理者は、その店舗において医薬品の販売又は授与に従事している者である必要はない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 1 3】 要指導医薬品及び一般用医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 薬局開設者又は店舗販売業者は、要指導医薬品を購入し、又は譲り受けようとする者が、当該医薬品を使用しようとする者であることを薬剤師に確認させなければならない。
- b 薬局開設者又は店舗販売業者は、要指導医薬品及び一般用医薬品を混在しないように陳列しなければならない。
- c 薬局開設者又は店舗販売業者は、要指導医薬品を購入し、又は譲り受けようとする者及び要指導医薬品を使用しようとする者の他の薬局開設者又は店舗販売業者からの当該要指導医薬品の購入又は譲受けの状況を薬剤師に確認させなければならない。
- d 要指導医薬品はお薬手帳への記録が重要とされているが、一般用医薬品については重要とされていない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

【問 1 4】 医薬品の販売記録の保存に関する次の記述の正誤について、医薬品医療機器等法の規定に照らし、正しい組合せはどれか。

- a 店舗販売業者は、要指導医薬品を販売したときは、販売した薬剤師の氏名を書面に記載し、3年間保存しなければならない。
- b 店舗販売業者は、第二類医薬品又は第三類医薬品を販売したときは、品名や数量等を書面に記載し、保存するよう努めなければならない。
- c 配置販売業者は、第一類医薬品を配置したときは、品名や数量、配置した日時等を書面に記載し、2年間保存しなければならない。
- d 店舗販売業者又は配置販売業者は、医薬品を販売し、授与し、又は配置したときは、当該医薬品を購入し、又は譲り受けた者の連絡先を書面に記載し、保存するよう努めなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

【問 1 5】 特定販売の定義及び実施方法に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「特定販売」とは、その薬局又は店舗におけるその薬局又は店舗以外の場所にいる者に対する一般用医薬品のみを対象とした販売又は授与をいう。
- b 特定販売を行うことについて広告をするときは、インターネットを利用する場合はホームページに、その他の広告方法を用いる場合は当該広告に、当該薬局又は店舗の主要な外観の写真等の情報を見やすく表示する必要がある。
- c 特定販売を行う場合、当該薬局又は店舗に貯蔵及び陳列していない一般用医薬品についても、販売し、又は授与することができる。
- d 特定販売を行うことについてインターネットを利用して広告をするときは、特定の利用者のみが閲覧することができるホームページで行わなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 1 6】 医薬品医療機器等法施行規則第 149 条の 10 の規定により、配置販売業者が医薬品を配置する際に添付する書面に記載しなければならない情報について、正しいものの組合せはどれか。

- a 区域管理者の氏名
- b 区域管理者の住所
- c 配置販売業者の氏名又は名称
- d 配置先の氏名又は名称

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 1 7】 店舗販売業者が、店舗の見やすい位置に掲示板で掲示しなければならない事項のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品による健康被害の救済制度に関する解説
- b 一般従事者（その店舗において実務に従事する薬剤師又は登録販売者以外の者）の氏名
- c 指定濫用防止医薬品の陳列等に関する解説
- d 医薬部外品及び化粧品の陳列等に関する解説

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 18】 店舗又は区域の管理及び法令遵守に関する追加的な研修を修了している登録販売者が、第二類医薬品又は第三類医薬品を販売する店舗販売業の店舗管理者になることができる要件に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

過去5年間のうち薬局、店舗販売業又は配置販売業において、一般従事者として薬剤師又は登録販売者の管理及び指導の下に実務に従事した期間及び登録販売者として業務に従事した期間が、通算して1年以上（従事期間が月単位で計算して、1か月に（ a ）時間以上従事した月が12月以上、又は、従事期間が通算して1年以上あり、かつ、過去5年間に於いて合計（ b ）時間以上）あり、医薬品医療機器等法施行規則第15条の11の3、第147条の11の3及び第149条の16に基づいて毎年度受講する必要がある研修に加えて、店舗又は区域の管理及び法令遵守に関する追加的な研修を修了している場合には、店舗管理者になることができる。

ただし、従事期間が通算して（ c ）年以上であり、かつ、過去に店舗管理者等として業務に従事した経験がある場合も店舗管理者となれることとされている。

	a	b	c
1	80	1,920	2
2	80	960	2
3	160	1,920	1
4	160	960	1

【問 19】 医薬品等適正広告基準に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 効能効果に一定の前提条件（いわゆる「しぼり表現」）がある場合、それを省いて広告することは原則として認められていない。
- b チラシやパンフレット等の同一紙面に、医薬品と、食品、化粧品、雑貨類等の医薬品ではない製品を併せて掲載することは問題ないが、医薬品でない製品について医薬品的な効能効果があるように見せかけ、一般の生活者に誤認を与えるおそれがある場合には、必要な承認等を受けていない医薬品の広告とみなされることがある。
- c 一般用医薬品の広告では、効能効果や安全性等について事実と反する認識を生じさせることのないよう、正確な情報の伝達が重要である。
- d 医薬品の有効性又は安全性について、それが確実であることを保証するような表現がなされた広告は、暗示的であれば、虚偽又は誇大な広告とみなされることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	正
5	正	正	正	誤

【問 2 0】 医薬品医療機器等法に基づく、行政庁による監視指導及びその処分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 都道府県知事（薬局又は店舗販売業にあっては、その薬局又は店舗の所在地が保健所設置市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）は、薬局開設者又は医薬品の販売業者が、医薬品医療機器等法の規定を遵守しているかどうか確かめるために、必要があると認めるときは、薬事監視員に、その薬局開設者又は医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入り、構造設備若しくは帳簿書類等を検査させることができる。
- b 都道府県知事（薬局又は店舗販売業にあっては、その薬局又は店舗の所在地が保健所設置市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）は、必要があると認めるときは、薬局開設者又は医薬品の販売業者に対して、必要な報告をさせ、又は薬事監視員に、その薬局開設者又は医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入り、無承認無許可医薬品等の疑いのある物を、試験のため必要な最少分量に限り、収去させることができる。
- c 行政庁の監視指導に対して、薬局開設者や医薬品の販売業者が命ぜられた報告を怠ったり、虚偽の報告をした場合などについては、罰則の規定が設けられている。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識（20 問）

【問 2 1】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべては解明されていない。
- b 検査薬は、検査結果について正しい解釈や判断がなされなければ医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがあるなど、人の健康に影響を与えるものがある。
- c 一般用医薬品は、十分な知見の積み重ねを経て販売されるため、市販後に添付文書や製品表示の記載が変更されることはない。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	誤

【問 2 2】 医薬品のリスク評価に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 製造販売後の調査及び試験の実施の基準として、Good Clinical Practice（G C P）が制定されている。
- b ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準として、国際的に Good Laboratory Practice（G L P）が制定されている。
- c 製造販売後安全管理の基準として、Good Post-marketing Study Practice（G P S P）が制定されている。
- d 動物実験により求められる 50%致死量（LD₅₀）は、薬物の毒性の指標として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 2 3】 食品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「栄養機能食品」は、栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的として摂取する者に対し、その栄養成分の機能の表示をする食品であり、個別の許可申請を行う必要がない自己認証制度である。
- b 「特定保健用食品」は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むもので、個別に（一部は規格基準に従って）特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関して、国に届出されたものである。
- c いわゆる「健康食品」は、あくまで食品であり、医薬品とは法律上区別されるため、一般用医薬品の販売時に健康食品の摂取の有無について確認する必要はない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正

【問 2 4】 セルフメディケーションに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 令和 9 年 1 月より、消化器官用薬や一般用検査薬もセルフメディケーション税制の対象となる。
- b スイッチ O T C 医薬品以外の一般用医薬品はセルフメディケーション税制の対象とならない。
- c セルフメディケーションの推進は、医療費の増加やその国民負担の増大を解決する重要な活動のひとつである。
- d 登録販売者が地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売や必要な時は医療機関の受診を勧める業務は、セルフメディケーションの推進に欠かせない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

【問 2 5】 医薬品によるアレルギーに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アレルギーは、内服薬で引き起こされることはあるが、外用薬で引き起こされることはない。
- b 薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となり得る。
- c アレルギー症状として、流涙や眼の^{かゆ}痒み等の結膜炎症状、鼻汁やくしゃみ等の鼻炎症状、^{じん}蕁麻疹や^{しん}湿疹、かぶれ等の皮膚症状、血管性浮腫のようなやや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。
- d 医薬品にアレルギーを起こしたことがない人であれば、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合でも、医薬品がアレルゲンになることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 2 6】 医薬品の薬理作用及び副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品は、通常その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、副作用の兆候が現れたときには基本的に使用を中止することとされており、必要に応じて医師、薬剤師などに相談がなされるべきである。
- b 眠気や口渇等の比較的良好に見られる症状は、副作用としては扱わない。
- c 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、明確な自覚症状として現れないこともある。
- d 通常、医薬品の有効成分は、複数の薬理作用を併せ持たない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

【問 2 7】 医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 便秘薬や総合感冒薬、解熱鎮痛薬などはその時の不快な症状を抑えるための医薬品であり、長期連用すれば、その症状を抑えていることで重篤な疾患の発見が遅れる可能性がある。
- b 一般用医薬品の長期連用により精神的な依存が起こることがある。
- c 「薬はよく効けばよい」と短絡的に考えて、定められた用量を超える量を服用すると、副作用につながる危険性が高い。
- d 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問 2 8】 医薬品の相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 相互作用は、医薬品が吸収、分布又は排泄^{せつ}される過程で起こるもので、代謝（体内で化学的に変化すること）される過程では起こることはない。
- b 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要である。
- c 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分が配合されていることは少ない。
- d 解熱鎮痛薬とかぜ薬では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 2 9】 医薬品と食品の相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 酒類（アルコール）をよく摂取し、肝臓の代謝機能が高まっている者においては、アセトアミノフェンは通常よりも代謝されやすくなる。
- b 外用薬は食品と吸収される部位が異なるため、食品による医薬品の作用や代謝への影響を考える必要はない。
- c 生薬成分は、医薬品的な効能効果が標榜^{ぼう}又は暗示されていなければ、食品（ハーブ等）として流通可能なものがあり、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正

【問 3 0】 小児等の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、乳児とは、おおよその目安として、生後 4 週未満とされている。
- b 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- c 錠剤やカプセル剤などの医薬品が喉につかえると、咳^せき込んで吐き出し苦しむことになり、その体験から乳幼児に医薬品の服用に対する拒否意識を生じさせることがある。
- d 保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避け、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用するよう説明がなされることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 3 1】 高齢者の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、高齢者とは、おおよその目安として、65 歳以上とされている。
- b 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、若年時と比べて副作用を生じるリスクが低くなる。
- c 高齢者は、生理機能の衰えのほか、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下^{えん}障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。
- d 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 3 2】 妊婦、妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品においては、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が行われている。
- b 一般用医薬品のビタミンA含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものがある。
- c 便秘薬であれば、配合成分やその用量に関わらず、流産や早産を誘発するおそれはない。
- d 授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することになる場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤

【問 3 3】 医療機関で治療を受けている人等の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品を使用することで、生活習慣病等の慢性疾患の症状が悪化したり、治療が妨げられることもある。
- b 疾患の程度や購入しようとする一般用医薬品の種類等に応じて、問題を生じるおそれがあれば使用を避けることができるよう情報提供がなされることが重要である。
- c 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することが義務づけられている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤

【問 3 4】 医薬品のプラセボ効果に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化は、薬理作用によるもののみであり、プラセボ効果によるものは含まれない。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- c プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることがある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 3 5】 医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならないが、配合されている成分（有効成分及び添加物成分）には、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変敗）を起こしやすいものが多い。
- b 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。
- c 外箱等に記載されている「使用期限」は、開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- d 一般用医薬品は、購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	正

【問 3 6】 一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 登録販売者は、生活者のセルフメディケーションに対して、第二類医薬品及び第三類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。
- b 一般用医薬品の購入者は、使用者の体質や症状等にあった製品を事前に調べて選択しているのではなく、宣伝広告や販売価格等に基づき漠然と製品を選択していることが少なくないことにも留意しなければならない。
- c 登録販売者からの情報提供は、説明内容が購入者等にどう理解されたかなどの実情を把握しながら行う必要はなく、専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでよい。
- d 情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 3 7】 一般用医薬品の販売時におけるコミュニケーションに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しく、コミュニケーションが成立しがたい場合は、購入者側から医薬品の使用状況に係る情報を引き出す必要はない。
- b 購入者等が一般用医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。
- c 「何のためにその医薬品を購入しようとしているか（購入者等のニーズ、購入の動機）」は、一般用医薬品の販売等に従事する専門家が購入者から確認しておきたい基本的ポイントのひとつである。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	正

【問 3 8】 サリドマイド製剤及びサリドマイド訴訟に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド訴訟とは、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊婦又は妊娠していると思われる女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 サリドマイド製剤の催奇形性は、1961年に西ドイツ（当時）から警告が発せられ、日本においても同年中に直ちに回収措置がとられた。
- 3 サリドマイドの鏡像異性体（光学異性体）のうち、血管新生を妨げる作用は、一方の異性体（S体）のみが有する作用であり、もう一方の異性体（R体）にはないとされている。
- 4 サリドマイド訴訟では、製薬企業だけでなく、国も被告として提訴された。

【問 3 9】 C型肝炎訴訟に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

出産や手術の際に特定の(a)製剤や(b)製剤の投与を受けたことにより、C型肝炎(c)に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	グロブリン	インターフェロン	ウイルス
2	フィブリノゲン	インターフェロン	細菌
3	フィブリノゲン	血液凝固第IX因子	ウイルス
4	グロブリン	インターフェロン	細菌
5	グロブリン	血液凝固第IX因子	ウイルス

【問 4 0】 薬害訴訟及びそれを契機とした体制整備等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a HIV訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。
- b サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- c C型肝炎訴訟を契機として、医師、薬剤師、法律家、薬害被害者などの委員により構成される薬事審議会が設置された。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	正	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

人体の働きと医薬品（20 問）

【問 4 1】 口腔に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 歯の齲蝕がエナメル質に達すると、神経が刺激されて、歯がしみたり痛みを感じるようになる。
- b 舌は味覚を感知するほか、咀嚼された飲食物を攪拌して唾液と混和させる働きがある。
- c 唾液によって口腔内の pH はアルカリ性に保たれ、酸による歯の齲蝕を防いでいる。
- d 唾液には、デンプンをデキストリンや麦芽糖に分解する消化酵素が含まれている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	正

【問 4 2】 消化器系に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 咽頭は、口腔から食道に通じる食物路と、呼吸器の気道とが交わる場所である。
- b 胃の粘膜の表面には無数の微細な孔があり、胃腺につながって塩酸（胃酸）やアミラーゼを分泌している。
- c 食道から送られてきた内容物の胃内における滞留時間は、脂質分の多い食品の場合には比較的短く、炭水化物主体の食品の場合には比較的長い。
- d 小腸は栄養分の吸収に重要な器官であるため、内壁の表面積を大きくする構造を持つ。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問 4 3】 消化器系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 小腸において、タンパク質は消化酵素の作用によって単糖類に分解されて吸収される。
- b 腸内に放出された胆汁酸塩の大部分は、小腸で再吸収されて肝臓に戻される。
- c 大腸の腸内細菌は、血液凝固や骨へのカルシウム定着に必要なビタミンK等の物質を産生している。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正

【問 4 4】 肝臓の主な働きに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a グリコーゲンの貯蔵
- b 胆汁を濃縮して貯蔵
- c 必須アミノ酸の生合成
- d ビタミンA、D、B₆、B₁₂の貯蔵

1 (a、b)	2 (a、d)	3 (b、c)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

【問 4 5】 循環器系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 血管系は心臓を中心とする開放循環系である。
- b 心臓の内部は上部左右の心室、下部左右の心房の4つの空洞に分かれている。
- c 心臓から拍出された血液を送る血管を動脈、心臓へ戻る血液を送る血管を静脈という。
- d 心臓の右側部分（右心房、右心室）は、全身から集まってきた血液を肺へ送り出す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

【問 4 6】 血液に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ヘモグロビンは鉄分と結合したタンパク質である。
- b 血液の粘^{ちゅう}稠^{しゅう}性は、主として血漿の水分量や血中脂質量で決まり、赤血球の量はほとんど影響を与えない。
- c 赤血球は骨髓で産生される。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	正	正

【問 4 7】 白血球に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 白血球は、体内に侵入した細菌やウイルス等の異物に対する防御を受け持つ細胞である。
- b 好中球は、白血球のうち最も数が多い。
- c リンパ球は、白血球の中で最も大きく、強い食作用を持つ。
- d リンパ球は、血管壁を通り抜けて組織の中に入り込むことができ、組織の中ではマクロファージと呼ばれる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 4 8】 泌尿器系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 腎小体では、原尿中のブドウ糖やアミノ酸等の栄養分及び血液の維持に必要な水分や電解質が再吸収される。
- b 食品から摂取あるいは体内で生合成されたビタミンKは、腎臓で活性型ビタミンKに転換されて、骨の形成や維持の作用を発揮する。
- c 副腎皮質ホルモンの一つであるアルドステロンは、体内にカリウムと水を貯留し、塩分の排泄^{せつ}を促す作用がある。
- d 副腎髄質では、自律神経系に作用するアドレナリン（エピネフリン）が産生・分泌される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 4 9】 目に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 水晶体は、その周りを囲んでいる毛様体の収縮・弛緩^しによって、近くの物を見る時には扁平^{へん}になり、遠くの物を見る時には丸く厚みが増す。
- b 角膜と水晶体の間は、組織液（房水）で満たされ、眼内に一定の圧（眼圧）を生じさせている。
- c 視細胞^{けん}が光を感じる反応には、ビタミンAが不可欠である。
- d 眼瞼^{けん}は、皮下組織が少なく薄くできているため、内出血や裂傷を生じやすい。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 5 0】 耳に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 外耳は、聴覚器官である蝸牛^かと、平衡器官である前庭の2つの部分からなる。
- b 外耳道にある耳垢^{こう}腺（汗腺の一種）や皮脂腺からの分泌物に、埃^{ほこり}や外耳道上皮の老廃物などが混じって耳垢（耳あか）となる。
- c 中耳は、外耳と内耳をつなぐ部分で、鼓膜、鼓室、耳小骨、耳管からなる。
- d 小さな子供は、耳管が細く長くて、走行が水平に近いため、鼻腔^{くう}からウイルスや細菌が侵入しにくく、感染は起こりにくい。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	正	誤	正	正

【問 5 1】 外皮系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 表皮は、線維芽細胞とその細胞で産生された線維性のタンパク質（コラーゲン、フィブリリン、エラスチン等）からなる結合組織の層である。
- b 角質層は、細胞膜が丈夫な線維性のタンパク質（ケラチン）でできた板状の角質細胞と、セラミド（リン脂質の一種）を主成分とする細胞間脂質で構成されている。
- c 汗はエクリン腺から分泌され、精神的緊張による発汗は全身の皮膚に生じる。
- d 毛球の下端のへこんでいる部分を毛乳頭といい、毛乳頭には毛細血管が入り込んで、取り巻く毛母細胞に栄養分を運んでいる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

【問 5 2】 骨格系及び筋組織に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 骨は生きた組織であり、成長が停止した後も一生を通じて破壊（骨吸収）と修復（骨形成）が行われている。
- b 骨には、カルシウムやリン等の無機質を蓄える機能がある。
- c 骨格筋は、収縮力が強く、自分の意識どおりに動かすことができる随意筋であり、疲労しにくく、長時間の動作に適している。
- d 心筋は、心臓壁にある筋層を構成する筋組織で、不随意筋であり、筋線維には骨格筋のような横縞模様がない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 5 3】 脳や神経系の働きに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 延髄は、自律神経系やホルモン分泌等の調節機能を担っている。
- b 小児では、血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳の組織に達しやすい。
- c 脊髄は、脳と末梢の間で刺激を伝えるほか、末梢からの刺激の一部に対して脳を介さずに刺激を返す場合がある。
- d 副交感神経の節後線維の末端から放出される神経伝達物質はノルアドレナリンである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 5 4】 交感神経系が活発になっているときの効果器とその反応との関係のうち、正しいものはどれか。

効果器		反応
1 目	—	瞳孔収縮
2 肝臓	—	グリコーゲンの合成
3 腸	—	運動亢進
4 胃	—	血管の収縮

【問 5 5】 医薬品の有効成分の吸収に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 内服薬のほとんどは、その有効成分が消化管から吸収されて循環血液中に移行し、全身作用を現す。
- b 有効成分は主に胃で吸収される。
- c 一般に、消化管からの吸収は、濃度の高い方から低い方へ受動的に拡散していく現象である。
- d 有効成分の吸収量や吸収速度は、消化管内容物によって影響を受けることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 5 6】 医薬品の代謝及び排泄^{せつ}に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 小腸などの消化管粘膜には、医薬品の代謝活性がない。
- b 有効成分は未変化体のままで、あるいは代謝物として、肺から呼気中へ排出されることがある。
- c 消化管で吸収された有効成分は、消化管の毛細血管から血液中へ移行し、その血液は全身循環に入る前に、腎臓を通過する。
- d 腎機能が低下した人では、正常な人よりも有効成分の尿中への排泄^{せつ}が遅れ、血中濃度が下がりにくい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

【問 5 7】 医薬品の体内での働きに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 血中濃度はある時点でピークに達し、その後は低下していくが、これは吸収・分布の速度が代謝・排泄^{せつ}の速度を上回るためである。
- b 一度に大量の医薬品を摂取しても、ある血中濃度以上になるとより強い薬効は得られなくなり、有害な作用（副作用や毒性）も現れにくくなる。
- c 全身作用を目的とする医薬品の多くは、使用後の一定期間、その有効成分の血中濃度が、最小有効濃度と毒性が現れる濃度域の間の範囲に維持されるよう、使用量及び使用間隔が定められている。
- d トランスポーターは、細胞膜の脂質二重層を貫き、埋め込まれて存在する膜貫通タンパク質で、細胞膜の内外へ極性物質、イオンを選択的に運ぶ。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

【問 5 8】 医薬品の剤形ごとの違い、適切な使用方法に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 軟膏^{こう}剤は、油性基剤に水分を加えたもので、患部を水で洗い流したい場合等に用いられる。
- b 口腔^{くわう}内崩壊錠は、口の中の唾液で速やかに溶ける工夫がなされている。
- c カプセルの原材料として広く用いられているゼラチンは、ブタなどのタンパク質を主成分としているため、ゼラチンに対してアレルギーを持つ人はカプセル剤の使用を避けるなどの注意が必要である。
- d 顆粒^か剤は、粒の表面がコーティングされているものもあるので、噛み砕かずに水などで飲み込む。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 5 9】 医薬品の副作用として現れる中毒性表皮壊死融解症に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ライエル症候群とも呼ばれる。
- b 症例の多くが皮膚粘膜眼症候群の進展型とみられる。
- c 両眼に現れる急性結膜炎が、皮膚や粘膜の変化とほぼ同時期又は半日～1 日程度先行して生じることが知られている。
- d 原因医薬品の使用開始後 2 週間以内に発症することが多く、1 ヶ月以上経ってから起こることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	正	誤

【問 6 0】 皮膚に現れる副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アレルギー性皮膚炎の発症部位は、医薬品の接触部位に限定される。
- b 光線過敏症の症状は、医薬品が触れた部分だけでなく、全身へ広がって重篤化する場合がある。
- c 薬疹^{しん}は、医薬品によって引き起こされるアレルギー反応の一種で、発疹^{しん}・発赤等の皮膚症状を呈する場合をいう。
- d 薬疹^{しん}は、それまで薬疹^{しん}を経験したことがない人であっても、暴飲暴食や肉体疲労が誘因となって現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	正	正
5	誤	誤	誤	正